

川越市上下水道事業経営戦略

令和3年度 取組状況報告書

水 道 事 業

公共下水道事業

— 目次 —

はじめに	1
1. 決算状況・経営の取組状況（水道事業）	2
2. 決算状況・経営の取組状況（下水道事業）	6
3. 経営比較分析表を活用した現状分析（水道事業）	10
4. 経営比較分析表を活用した現状分析（下水道事業）	17

令和5年1月
川越市上下水道局

はじめに

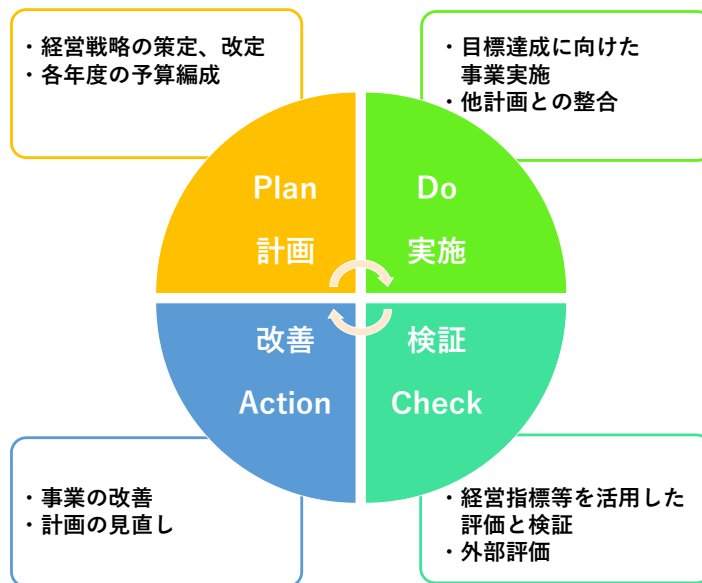
本市では、水道事業及び公共下水道事業が将来にわたってサービスの提供を安定的に継続できるよう、中長期的な経営の基本計画である「川越市上下水道事業経営戦略」を策定しました（令和2年3月）。

また、総務省は平成31年3月に発出した『「経営戦略」の策定・改定の更なる推進について』において、経営戦略の策定後は、進捗管理や計画と実績との乖離検証を行い、「経営戦略策定・改定ガイドライン」や「経営戦略策定・改定マニュアル」を用いて、定期的な見直しを行うことなどを各地方公共団体に要請しています（PDCAサイクルの確立）。

このたび、令和3年度決算に基づき経営戦略に掲げた事業計画について、その取組状況を検証するとともに経営状況の評価を行いました。

計画期間＝令和2年度～令和11年度

検証・評価＝令和3年度



川越市上下水道事業経営戦略におけるPDCAサイクル

1. 決算状況・経営の取組状況

水道事業

(1) 令和3年度決算

令和3年度の収益的収支では、約5億1,000万円の当年度純利益が生じ、前年度に比べて約8,300万円増加しました。計画値との比較では営業収益が約2億1,000万円下回っているものの、当年度純利益としては、約1億6,000万円上回る状況となりました。

資本的収支では、工事負担金の減少等により資本的収入が約5,400万円減少した一方、建設改良費の増加等により資本的支出が約3億3,000万円増加した結果、資本的収支不足額は前年度に比べて約3億8,000万円増加し、計画値との比較では、約1億2,000万円上回る状況となりました。

(2) 経営の取組状況

経営戦略を着実に推進するために、計画に掲げた投資及び財源の目標に沿った取組の評価を毎年度実施します。

評価結果を事業や今後の計画に反映させることにより、継続的に改善を行います。

① 評価の方法

経営戦略に掲げた投資及び財源に関する方向性で示した数値目標に関する達成度合いについて評価（内部評価*）を行います。

② 評価基準

目標を設定した指標について、以下の基準に基づき評価を行い、C評価となった項目については、改善の取組に関する検討を行います。

A	順調	問題なく進んでいる
B	おおむね順調	計画期間終了までに目標を達成できる見込みがある
C	遅れている	進展が遅く、改善の取組を進める必要がある

③ 評価の総括（各指標についてはP3【令和3年度取組状況に関する評価（水道事業）】に記載）

新型コロナウイルスの影響により、前年度に引き続き水道の使用実態に変化が見られます。その結果、将来の見通しに影響が生じており、今後、計画の目標を達成するため、実情に即した収支計画の確立に向けた精査が必要です。

* 上下水道局内にて評価を行い、外部評価については経営戦略の見直しの際に実施することを想定しています。

◆令和3年度取組状況に関する評価（水道事業）

1. 投資に関する方向性

目標値

（当初値／実績値／目標値）		当初 ^(H29)	R元 ^{実績}	R2 ^{実績}	R3 ^{実績}	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
有収率 （年間有収水量／ 年間配水量）	数値	94.6 %	93.3 %	94.0 %	94.7 %							95.0 %
	評価			B	B							
管路の更新率 （更新管路延長／ 管路総延長）	数値	0.98 %	0.94 %	0.96 %	1.40 %							1.25 %
	評価			B	A							
重要施設配水管耐震化率 （耐震化済延長／ 全重要施設配水管延長）	数値	15.8 %	18.0 %	20.3 %	21.4 %							30.0 %
	評価			B	B							
配水管の耐震化率	数値	20.1 %	22.1 %	23.2 %	24.5 %							32.6 %
	評価			B	B							

3

2. 財源に関する方向性

目標値

（当初値／実績値／目標値）		当初 ^(H29)	R元 ^{実績}	R2 ^{実績}	R3 ^{実績}	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
企業債残高対給水収益比率 （200%以内）	数値	134.92 %	134.71%	139.28%	136.17%							200%以内
	評価			A	A							
適正な内部留保資金水準 （25 億円以上）	数値	約 25.1 億円	約 43.7 億円	約 46.6 億円	約 46.8 億円							25億円以上
	評価			A	A							
料金回収率100%以上 （供給単価／給水原価）	数値	103.53 %	95.5 %	96.3 %	97.5 %							100%以上
	評価			B	B							
累積欠損金未発生	数値	未発生	未発生	未発生	未発生							未発生
	評価			A	A							

* 計画策定時における指標値として当初値（平成29年度末）、計画初年度の前年度対比として令和元年度末の値を併記しています。

◆令和3年度収支状況

水道事業収益の収支

科目	令和2年度決算額	令和3年度決算額
水道事業収益	6,244,764,233	6,385,426,133
営業収益	5,797,274,019	5,921,697,318
営業外収益	446,660,336	452,563,669
特別利益	829,878	11,165,146
水道事業費用	5,815,215,144	5,872,672,324
営業費用	5,672,102,535	5,744,541,732
営業外費用	141,613,209	126,716,148
特別損失	1,499,400	1,414,444
当年度純利益	429,549,089	512,753,809

水道事業資本の収支

科目	令和2年度決算額	令和3年度決算額
資本の収入	938,594,000	884,511,300
企業債	700,000,000	700,000,000
他会計負担金	35,741,000	35,441,000
工事負担金	115,524,000	63,146,000
水道施設加入金	87,289,400	85,704,300
固定資産売却代金	39,600	0
他会計補助金	0	220,000
資本の支出	2,678,384,104	3,004,844,644
建設改良費	2,019,687,529	2,302,896,018
企業債償還金	658,696,575	701,948,626
予備費	0	0
資本の収支	△ 1,739,790,104	△ 2,120,333,344

令和3年度取組状況報告書

(単位：円)

前年度比較（増減）	計画値（投資・財政計画）	決算額と計画値との差
140,661,900	6,515,237,000	△ 129,810,867
124,423,299	6,128,576,000	△ 206,878,682
5,903,333	386,651,000	65,912,669
10,335,268	10,000	11,155,146
57,457,180	6,160,303,000	△ 287,630,676
72,439,197	6,002,131,000	△ 257,589,268
△ 14,897,061	153,398,000	△ 26,681,852
△ 84,956	4,774,000	△ 3,359,556
83,204,720	354,934,000	157,819,809

(単位：円)

前年度比較（増減）	計画値（投資・財政計画）	決算額と計画値との差
△ 54,082,700	912,843,000	△ 28,331,700
0	700,000,000	0
△ 300,000	53,184,000	△ 17,743,000
△ 52,378,000	51,961,000	11,185,000
△ 1,585,100	107,698,000	△ 21,993,700
△ 39,600	0	0
220,000	0	220,000
326,460,540	2,918,003,000	86,841,644
283,208,489	2,211,054,000	91,842,018
43,252,051	701,949,000	△ 374
0	5,000,000	△ 5,000,000
△ 380,543,240	△ 2,005,160,000	△ 115,173,344

2. 決算状況・経営の取組状況

下水道事業

(1) 令和3年度決算

令和3年度の収益的収支では、約2億1,000万円の当年度純利益が生じ、前年度に比べて約9,900万円増加しました。また、計画値との比較では約2,200万円上回る状況となりました。

資本的収支では、企業債の借入額の減少等により資本的収入が約2億8,000万円減少した一方、建設改良費の増加により資本的支出が約1億円増加した結果、資本的収支不足額は前年度に比べて約3億8,000万円増加し、計画値との比較では約1億4,000万円上回る状況となりました。

(2) 経営の取組状況

経営戦略を着実に推進するために計画に掲げた投資及び財源の目標に沿った取組の評価を毎年度実施します。

評価結果を事業や今後の計画に反映させることにより、継続的に改善を行います。

① 評価の方法

経営戦略に掲げた投資及び財源に関する方向性で示した数値目標に関する達成度合いについて評価（内部評価*）を行います。

② 評価基準

目標を設定した指標について、以下の基準に基づき評価を行い、C評価となった項目については、改善の取組に関する検討を行います。

A	順調	問題なく進んでいる
B	おおむね順調	計画期間終了までに目標を達成できる見込みがある
C	遅れている	進展が遅く、改善の取組を進める必要がある

③ 評価の総括（各指標についてはP7【令和3年度取組状況に関する評価（下水道事業）】に記載）

有収率は前年度実績値から向上しましたが、依然として低い水準にあるため、有収率向上に向け施設の修繕、更新等を計画的に行い、下水道施設の適正な維持管理に努める必要があります。また下水道接続に関する指導を継続するなど、財源確保に関する取組を強化していく必要があります。

*上下水道局内にて評価を行い、外部評価については経営戦略の見直しの際に実施することを想定しています。

◆令和3年度取組状況に関する評価（下水道事業）

1. 投資に関する方向性

目標値

（当初値／実績値／目標値）		当初 ^(H29末)	R元末 ^{実績}	R2末 ^{実績}	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
長寿命化管きょ延長	数値	31.7 km	32.3 km	33.8 km	34.2 km							36.7 km
	評価			B	B							
管きょ耐震化率 （耐震管渠延長／ 管渠総延長）	数値	14.5%	15.5%	17.0%	18.4%							22.8%
	評価			A	A							
有収率 （年間有収水量／ 年間汚水処理量）	数値	71.3%	65.7%	68.6%	74.0%							80.0%
	評価			C	C							

2. 財源に関する方向性

目標値

（当初値／実績値／目標値）		当初 ^(H29末)	R元末 ^{実績}	R2末 ^{実績}	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
企業債残高対事業規模比率 （200%以内）	数値	172.23 %	156.26 %	146.39 %	133.20 %							200%以内
	評価			A	A							
適正な内部留保資金水準 （30億円以上）	数値	約34.8億円	約45.7億円	約48.4億円	約48.1億円							30億円以上
	評価			A	A							
経費回収率100%以上 （下水道使用料／汚水処理費）	数値	107.44 %	86.93 % [*]	87.92 %	92.59%							100%以上
	評価			B	B							
累積欠損金未発生	数値	未発生	未発生	未発生	未発生							未発生
	評価			A	A							

* 令和元年度から、総務省が示した地方公営企業決算状況調査の基準に基づき、汚水処理費の算出方法を変更したことから数値が減少しました。
（変更前の算出方法による令和3年度の経費回収率は108.09%です）

* 計画策定時における指標値として当初値（平成29年度末）、計画初年度の前年度対比として令和元年度末の値を併記しています。

◆令和3年度収支状況

公共下水道事業収益の収支

科目	令和2年度決算額	令和3年度決算額
下水道事業収益	6,114,626,837	5,888,851,088
営業収益	4,161,352,825	4,168,320,830
営業外収益	1,842,220,944	1,701,498,608
特別利益	111,053,068	19,031,650
下水道事業費用	6,007,505,505	5,682,353,461
営業費用	5,585,135,725	5,326,579,659
営業外費用	375,477,951	336,626,777
特別損失	46,891,829	19,147,025
当年度純利益	107,121,332	206,497,627

公共下水道事業資本の収支

科目	令和2年度決算額	令和3年度決算額
資本的收入	963,493,127	682,921,003
企業債	555,900,000	354,000,000
国庫補助金	97,970,000	116,780,000
工事負担金	396,300	283,100
その他	104,343,920	75,489,960
他会計負担金	69,433,407	72,477,943
他会計補助金	135,433,000	63,890,000
固定資産売却代金	16,500	0
資本の支出	2,922,496,418	3,026,880,525
建設改良費	1,735,638,147	1,845,425,628
企業債償還金	1,186,858,271	1,181,454,897
予備費	0	0
資本の収支	△ 1,959,003,291	△ 2,343,959,522

令和3年度取組状況報告書

(単位：円)

前年度比較（増減）	計画値（投資・財政計画）	決算額と計画値との差
△ 225,775,749	6,138,247,000	△ 249,395,912
6,968,005	4,240,109,000	△ 71,788,170
△ 140,722,336	1,880,938,000	△ 179,439,392
△ 92,021,418	17,200,000	1,831,650
△ 325,152,044	5,953,566,000	△ 271,212,539
△ 258,556,066	5,624,984,000	△ 298,404,341
△ 38,851,174	307,844,000	28,782,777
△ 27,744,804	20,738,000	△ 1,590,975
99,376,295	184,681,000	21,816,627

(単位：円)

前年度比較（増減）	計画値（投資・財政計画）	決算額と計画値との差
△ 280,572,124	1,492,451,000	△ 809,529,997
△ 201,900,000	600,000,000	△ 246,000,000
18,810,000	159,500,000	△ 42,720,000
△ 113,200	0	283,100
△ 28,853,960	39,300,000	36,189,960
3,044,536	66,146,000	6,331,943
△ 71,543,000	627,505,000	△ 563,615,000
△ 16,500	0	0
104,384,107	3,697,479,000	△ 670,598,475
109,787,481	2,511,023,000	△ 665,597,372
△ 5,403,374	1,181,456,000	△ 1,103
0	5,000,000	△ 5,000,000
△ 384,956,231	△ 2,205,028,000	△ 138,931,522

3. 経営比較分析表を活用した現状分析

水道事業

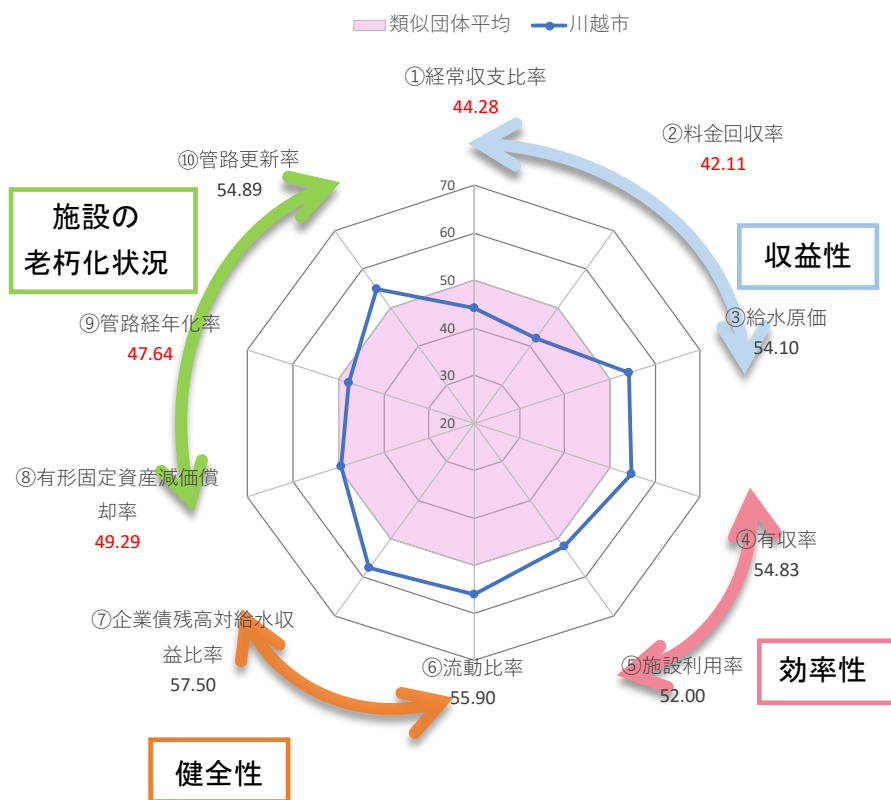
経営比較分析表とは、総務省が示した統一様式により、公営企業における経営や施設の状況を表す指標について、経年変化や類似団体平均との比較分析を行うことで、現状や課題等を把握することができる資料です。

本取組状況報告書では、経営比較分析表から令和2年度の各指標値を抽出し、類似団体の平均（ピンク色）を偏差値50とし、外側に向かうほど各指標が平均よりもよいことを表すレーダーチャートを下図のとおり作成しました。

また、次ページ以降に掲載している経営比較分析表では、令和2年度以前の5年間における各指標値と類似団体平均値を比較し、本市の令和3年度の指標値を示しています（令和3年度の類似団体平均値については、令和4年12月時点で総務省から公表されていません）。

なお、類似団体とは、給水形態及び現在給水人口規模により区分されたもので、川越市は「末端給水事業、現在給水人口30万人以上」の区分（令和2年度は50団体）に属しています。

経営比較分析表レーダーチャート（令和2年度 水道事業）



令和3年度取組状況報告書

収益性 に関する指標

業務指標	経常収支比率(%)	
①経常収支比率(%)		
評価基準	高い方がよい	
計算式	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$	
説明	<p>毎年度の維持管理費や支払利息等の費用を、料金収入や繰入金等での程度賄えているかを示す指標です。100%以上であるときは、単年度の収支が黒字であることを意味します。</p>	<p>100%以上であるものの、類似団体より低い傾向にあります。今後は、人口減少に伴う給水収益の減少や老朽管の更新に伴う減価償却費の増加等が見込まれるため、収支バランスを注視し、経営環境の変化に応じた対策が必要です。</p>

収益性 に関する指標

業務指標	料金回収率(%)	
②料金回収率(%)		
評価基準	100%を超えること	
計算式	$\frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}} \times 100$	
説明	<p>給水に要した経費を、料金収入でどの程度賄えているかを示した指標です。料金水準等を評価することが可能で、すべて料金収入で賄えている場合は100%以上となり、適正な水道料金が確保されることとなります。</p>	<p>100%を下回る傾向にあるため、今後想定される施設の維持や修繕等に要する費用を踏まえた適正な料金水準について検討する必要があります。</p>

令和3年度取組状況報告書

収益性 に関する指標

業務指標	<p style="text-align: center;">給水原価(円/m³)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>147.76</td> <td>140.50</td> <td>145.20</td> <td>150.33</td> <td>141.86</td> <td>144.11</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>150.54</td> <td>151.85</td> <td>153.88</td> <td>157.19</td> <td>153.71</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H28	H29	H30	R1	R2	R3	川越市	147.76	140.50	145.20	150.33	141.86	144.11	平均値	150.54	151.85	153.88	157.19	153.71	-
		H28	H29	H30	R1	R2	R3															
川越市		147.76	140.50	145.20	150.33	141.86	144.11															
平均値		150.54	151.85	153.88	157.19	153.71	-															
③給水原価(円/m ³)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{経常費用} - \left(\begin{array}{l} \text{受託工事費} \\ \text{+材料及び不用品売却原価} \\ \text{+附帯事業費} \end{array} \right)}{\text{年間(総)有収水量}} - \text{長期前受金戻入}$																						
説明	評価																					
水道料金の対象となった水量1m ³ 当たりの給水に要した費用を示す指標です。一般的には低額の方がよいとされていますが、明確な数値基準がないため、経年比較や類似団体との比較等により現状分析を行う必要があります。	類似団体より低い傾向にあります。人口減少に伴う有収水量の減少、今後増加が見込まれる維持管理費や営業費用の約4割を占める県水の購入単価の動向について引き続き注視する必要があります。																					

効率性 に関する指標

業務指標	<p style="text-align: center;">有収率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>94.98</td> <td>94.56</td> <td>94.22</td> <td>93.25</td> <td>94.02</td> <td>94.71</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>91.60</td> <td>91.48</td> <td>91.58</td> <td>91.48</td> <td>91.64</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H28	H29	H30	R1	R2	R3	川越市	94.98	94.56	94.22	93.25	94.02	94.71	平均値	91.60	91.48	91.58	91.48	91.64	-
		H28	H29	H30	R1	R2	R3															
川越市		94.98	94.56	94.22	93.25	94.02	94.71															
平均値		91.60	91.48	91.58	91.48	91.64	-															
④有収率(%)																						
評価基準																						
高い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{年間(総)有収水量}}{\text{年間(総)配水量}} \times 100$																						
説明	評価																					
浄水場・受水場から配水した水量のうち、実際に水道料金の対象となった水量の割合を示す指標で、100%に近いほどよいとされています。	類似団体より高い傾向にあります。今後も適正な維持管理や計画的な老朽管更新等を継続し、漏水の防止に取り組んでいく必要があります。																					

令和3年度取組状況報告書

効率性 に関する指標

業務指標	<p style="text-align: center;">施設利用率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>65.16</td> <td>65.57</td> <td>65.64</td> <td>65.50</td> <td>66.60</td> <td>65.78</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>63.18</td> <td>63.54</td> <td>63.53</td> <td>63.16</td> <td>64.41</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			H28	H29	H30	R1	R2	R3	川越市	65.16	65.57	65.64	65.50	66.60	65.78	平均値	63.18	63.54	63.53	63.16	64.41	-
			H28	H29	H30	R1	R2	R3															
川越市			65.16	65.57	65.64	65.50	66.60	65.78															
平均値			63.18	63.54	63.53	63.16	64.41	-															
⑤施設利用率(%)																							
評価基準																							
高い方がよい																							
計算式																							
$\frac{\text{一日平均配水量}}{\text{一日配水能力}} \times 100$																							
説明	評価																						
<p>水道施設の効率性を示し、施設の利用状況や適正規模を判断するための指標です。明確な数値基準はありませんが、高い数値の方がよいとされています。数値が高すぎる場合は施設の余裕が少なく、低すぎる場合は無駄のある状態です。</p>	<p>コロナ禍前の水準近くまで数値が低下しました。在宅時間が減少し、個人宅での使用水量が減少したことが要因と考えられます。今後は人口減少や社会情勢の動向を注視しつつ、適正な施設規模のあり方について検討が必要です。</p>																						

健全性 に関する指標

業務指標	<p style="text-align: center;">流動比率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>326.94</td> <td>283.00</td> <td>385.29</td> <td>397.98</td> <td>346.14</td> <td>379.46</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>249.08</td> <td>254.05</td> <td>258.22</td> <td>250.03</td> <td>239.45</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			H28	H29	H30	R1	R2	R3	川越市	326.94	283.00	385.29	397.98	346.14	379.46	平均値	249.08	254.05	258.22	250.03	239.45	-
			H28	H29	H30	R1	R2	R3															
川越市			326.94	283.00	385.29	397.98	346.14	379.46															
平均値			249.08	254.05	258.22	250.03	239.45	-															
⑥流動比率(%)																							
評価基準																							
高い方がよい																							
計算式																							
$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$																							
説明	評価																						
<p>1年以内に支払うべき債務に対して、支払い可能な現金等をどの程度有しているかを示す指標で、短期の支払い能力を表しています。200%を超えていることが望ましく、100%未満では不良債権が発生している可能性があります。</p>	<p>類似団体より高い水準を維持しており、短期的な支払能力を確保できています。</p>																						

令和3年度取組状況報告書

健全性 に関する指標

業務指標	
⑦企業債残高対給水収益比率(%)	
評価基準	
低い方がよい	
計算式	
$\frac{\text{企業債現在高合計}}{\text{給水収益}} \times 100$	

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
川越市	133.91	134.92	133.02	134.71	139.37	136.17
平均値	266.66	258.63	255.12	254.19	259.56	-

説明	評価
<p>企業債の残高と料金収入等の収益との比率を示す指標です。明確な数値基準はありませんが、比率は低い方がよいとされています。ただし、世代間負担の公平性という観点からは、企業債を一定程度活用することも望まれます。</p>	<p>類似団体より低い水準で推移していますが、企業債は今後も更新事業の財源として必要なため、世代間負担を考慮した適正な水準について検討が必要です。</p>

健全性 に関する指標

業務指標	
累積欠損金比率(%)	
評価基準	
低い方がよい	
計算式	
$\frac{\text{当年度未処理欠損金}}{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}} \times 100$	

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
川越市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-

説明	評価
<p>累積欠損金とは、営業活動の結果発生した損失が、当該年度で処理できずに複数年度にわたって累積したものを示しています。健全な経営を維持していく上では、累積欠損金が発生していないことを示す0%であることが求められます。</p>	<p>本市では、累積欠損金は発生していません。</p>

令和3年度取組状況報告書

施設 の老朽化状況

業務指標	<p style="text-align: center;">有形固定資産減価償却率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>47.95</td> <td>48.75</td> <td>50.09</td> <td>51.08</td> <td>51.92</td> <td>52.69</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>49.10</td> <td>49.66</td> <td>50.41</td> <td>51.13</td> <td>51.62</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H28	H29	H30	R1	R2	R3	川越市	47.95	48.75	50.09	51.08	51.92	52.69	平均値	49.10	49.66	50.41	51.13	51.62	-
		H28	H29	H30	R1	R2	R3															
川越市		47.95	48.75	50.09	51.08	51.92	52.69															
平均値		49.10	49.66	50.41	51.13	51.62	-															
⑧有形固定資産減価償却率(%)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$																						
説明	評価																					
有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを示す指標で、資産の老朽化度合いを表しています。この比率が高いほど減価償却が進んでおり、施設の老朽化が進んでいることを示しています。	類似団体と同水準ですが、上昇傾向にあり、施設の老朽化が進行しています。計画的、効果的に償却対象資産の更新を行う必要があります。																					

施設 の老朽化状況

業務指標	<p style="text-align: center;">管路経年化率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>20.30</td> <td>21.38</td> <td>23.39</td> <td>24.71</td> <td>25.86</td> <td>27.52</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>17.42</td> <td>18.94</td> <td>20.36</td> <td>22.41</td> <td>23.68</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H28	H29	H30	R1	R2	R3	川越市	20.30	21.38	23.39	24.71	25.86	27.52	平均値	17.42	18.94	20.36	22.41	23.68	-
		H28	H29	H30	R1	R2	R3															
川越市		20.30	21.38	23.39	24.71	25.86	27.52															
平均値		17.42	18.94	20.36	22.41	23.68	-															
⑨管路経年化率(%)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{法定耐用年数を経過した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$																						
説明	評価																					
法定耐用年数を超えた管路延長の割合を示す指標で、管路の老朽化度合いを表しています。	類似団体よりやや高く、上昇傾向にあります。今後もアセットマネジメントに基づき、計画的、効率的に管路の更新を行っていく必要があります。																					

施設 の老朽化状況

業務指標	<p style="text-align: center;">管路更新率(%)</p> <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>1.06</td> <td>0.98</td> <td>0.66</td> <td>0.94</td> <td>0.96</td> <td>1.40</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>0.73</td> <td>0.74</td> <td>0.75</td> <td>0.73</td> <td>0.79</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			H28	H29	H30	R1	R2	R3	川越市	1.06	0.98	0.66	0.94	0.96	1.40	平均値	0.73	0.74	0.75	0.73	0.79	-
			H28	H29	H30	R1	R2	R3															
川越市			1.06	0.98	0.66	0.94	0.96	1.40															
平均値			0.73	0.74	0.75	0.73	0.79	-															
⑩ 管路更新率(%)																							
評価基準																							
高い方がよい																							
計算式																							
$\frac{\text{当該年度に更新した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$																							
説明	評価																						
<p>その年度に更新した管路延長の割合を示した指標で、更新の取組状況を表しています。例えば毎年1%ずつ更新した場合、100年で全ての管路を更新する計算となります。</p>	<p>繰越事業の実施に伴い、前年度より数値が上昇しました。類似団体より高い水準を維持していますが、引き続きアセットマネジメントに基づいた更新を行い、管路の機能保全を図っていく必要があります。</p>																						

4. 経営比較分析表を活用した現状分析

下水道事業

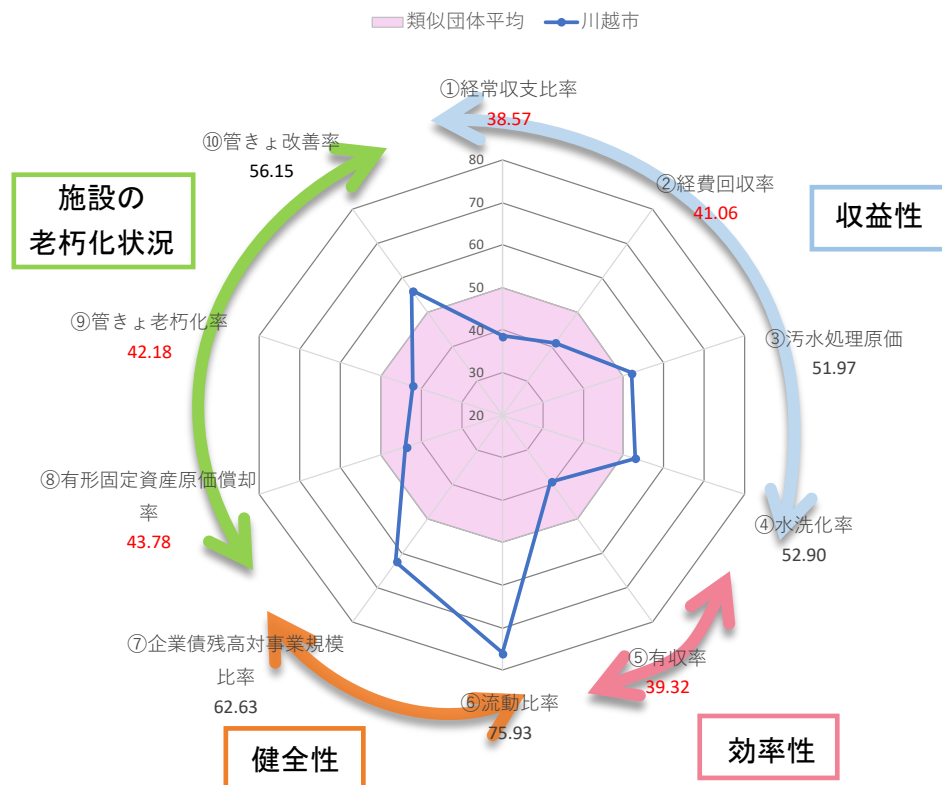
経営比較分析表とは、総務省が示した統一様式により、公営企業における経営や施設の状況を表す指標について、経年変化や類似団体平均との比較分析を行うことで、現状や課題等を把握することができる資料です。

本取組状況報告書では、経営比較分析表から令和2年度の各指標値を抽出し、類似団体の平均（ピンク色）を偏差値50とし、外側に向かうほど各指標が平均よりもよいことを表すレーダーチャートを下図のとおり作成しました。

また、次ページ以降に掲載している経営比較分析表では、令和2年度以前の5年間における各指標値と類似団体平均値を比較し、本市の令和3年度の指標値を示しています（令和3年度の類似団体平均値については、令和4年12月時点で総務省から公表されていません）。

なお、類似団体とは、処理区域内人口規模、人口密度等により区分されたもので、川越市は「処理区域内人口10万人以上、処理区域内人口密度75人/ha以上」の区分（令和2年度は29団体）に属しています。

経営比較分析表レーダーチャート（令和2年度 下水道事業）



*有収率は経営比較分析表の指標ではありませんが、本経営戦略では分析の項目に追加しています。

令和3年度取組状況報告書

収益性 に関する指標

業務指標		
①経常収支比率(%)		
評価基準		
高い方がよい		
計算式		
$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$		
説明		評価
<p>毎年度の維持管理費や支払利息等の費用を、使用料収入や繰入金等でどの程度賄えているかを示す指標です。100%以上であるときは、単年度の収支が黒字であることを意味します。</p>		<p>資産減耗費や流域下水道の維持管理費等の減少により数値は上昇しましたが、依然として類似団体より低い水準にあります。引き続き、適正な収入の確保や経費削減に努める必要があります。</p>

収益性 に関する指標

業務指標		
②経費回収率(%)		
評価基準		
100%を超えること		
計算式		
$\frac{\text{下水道使用料}}{\text{汚水処理費}} \times 100$ <p>(公費負担分を除く)</p>		
説明		評価
<p>汚水処理に要した経費を、使用料収入でどの程度賄えているかを示した指標です。使用料水準等の評価することが可能で、すべて使用料収入で賄えている場合は100%以上となり、適正な使用料が確保されていることとなります。</p>		<p>令和元年度数値から汚水処理費の算出方法を見直したため、類似団体より低い水準にあります。令和3年度は資産減耗費等の減少により数値が上昇しましたが、今後想定される施設の維持管理を見据えた適正な使用料水準の検討や不明水対策等による汚水処理費の縮減に引き続き努める必要があります。</p>

令和3年度取組状況報告書

収益性 に関する指標

業務指標	<p style="text-align: center;">汚水処理原価(円/m³)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>96.11</td> <td>91.49</td> <td>90.52</td> <td>112.19</td> <td>109.11</td> <td>103.93</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>116.20</td> <td>118.78</td> <td>119.39</td> <td>117.41</td> <td>114.01</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H28	H29	H30	R1	R2	R3	川越市	96.11	91.49	90.52	112.19	109.11	103.93	平均値	116.20	118.78	119.39	117.41	114.01	-
		H28	H29	H30	R1	R2	R3															
川越市		96.11	91.49	90.52	112.19	109.11	103.93															
平均値		116.20	118.78	119.39	117.41	114.01	-															
③汚水処理原価(円/m ³)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{汚水処理費 (公費負担分を除く)}}{\text{年間有収水量}}$																						
説明	評価																					
<p>下水道使用料の対象となった水量1m³当たりの汚水処理に要した費用を示す指標です。一般的には低額の方がよいとされていますが、明確な数値基準がないため、経年比較や類似団体との比較等により現状分析を行う必要があります。</p>	<p>令和元年度数値から汚水処理費の算出方法を見直したため、数値が上昇しています。令和3年度は降雨量の減少等により、前年度に引き続き数値は減少しました。今後も経費削減に努めるとともに、不明水対策等を推進する必要があります。</p>																					

収益性 に関する指標

業務指標	<p style="text-align: center;">水洗化率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>97.52</td> <td>98.00</td> <td>98.03</td> <td>98.06</td> <td>98.18</td> <td>98.19</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>96.84</td> <td>96.75</td> <td>96.78</td> <td>97.00</td> <td>97.24</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H28	H29	H30	R1	R2	R3	川越市	97.52	98.00	98.03	98.06	98.18	98.19	平均値	96.84	96.75	96.78	97.00	97.24	-
		H28	H29	H30	R1	R2	R3															
川越市		97.52	98.00	98.03	98.06	98.18	98.19															
平均値		96.84	96.75	96.78	97.00	97.24	-															
④水洗化率(%)																						
評価基準																						
高い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{現在水洗便所設置済人口}}{\text{現在処理区域内人口}} \times 100$																						
説明	評価																					
<p>処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理をしている人口の割合を示す指標です。100%となることが理想です。</p>	<p>類似団体をやや上回っていますが、資産の有効活用や使用料収入の確保に向け、引き続き水洗化調査等を推進する必要があります。</p>																					

令和3年度取組状況報告書

効率性 に関する指標

業務指標	<p style="text-align: center;">有収率(%)</p> <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>73.71</td> <td>71.30</td> <td>73.52</td> <td>65.70</td> <td>68.60</td> <td>74.04</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>81.17</td> <td>81.46</td> <td>82.29</td> <td>80.01</td> <td>82.79</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			H28	H29	H30	R1	R2	R3	川越市	73.71	71.30	73.52	65.70	68.60	74.04	平均値	81.17	81.46	82.29	80.01	82.79	-
			H28	H29	H30	R1	R2	R3															
川越市			73.71	71.30	73.52	65.70	68.60	74.04															
平均値			81.17	81.46	82.29	80.01	82.79	-															
⑤有収率(%)																							
評価基準																							
高い方がよい																							
計算式																							
$\frac{\text{年間有収水量}}{\text{年間汚水処理水量}} \times 100$																							
説明	評価																						
各家庭・事業所等から出た汚水量のうち、実際に下水道使用料の対象となった水量の割合を示す指標で、100%に近いほどよいとされています。	降雨量の減少や不明水対策の実施により、令和元年前の水準まで改善しています。今後も流量調査やカメラ調査等の効率的な不明水対策を継続して実施していく必要があります。																						

効率性 に関する指標

業務指標	<p style="text-align: center;">施設利用率(%)</p> <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>69.23</td> <td>70.37</td> <td>68.30</td> <td>67.37</td> <td>67.71</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			H28	H29	H30	R1	R2	R3	川越市	-	-	-	-	-	-	平均値	69.23	70.37	68.30	67.37	67.71	-
			H28	H29	H30	R1	R2	R3															
川越市			-	-	-	-	-	-															
平均値			69.23	70.37	68.30	67.37	67.71	-															
施設利用率(%)																							
評価基準																							
高い方がよい																							
計算式																							
$\frac{\text{晴天時一日平均処理水量}}{\text{晴天時現在処理能力}} \times 100$																							
説明	評価																						
下水道施設の効率性を示し、施設の利用状況や適正規模を判断するための指標です。明確な数値基準はありませんが、高い数値の方がよいとされています。数値が高すぎる場合は施設の余裕が少なく、低すぎる場合は無駄のある状態です。	本市は処理場を有していないため、該当しません。																						

令和3年度取組状況報告書

健全性 に関する指標

業務指標	<p style="text-align: center;">流動比率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>222.14</td> <td>218.83</td> <td>260.15</td> <td>300.79</td> <td>292.90</td> <td>313.29</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>72.74</td> <td>83.46</td> <td>80.64</td> <td>88.10</td> <td>84.84</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			H28	H29	H30	R1	R2	R3	川越市	222.14	218.83	260.15	300.79	292.90	313.29	平均値	72.74	83.46	80.64	88.10	84.84	-
			H28	H29	H30	R1	R2	R3															
川越市			222.14	218.83	260.15	300.79	292.90	313.29															
平均値			72.74	83.46	80.64	88.10	84.84	-															
⑥流動比率(%)																							
評価基準																							
計算式																							
$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$																							
説明	評価																						
<p>1年以内に支払うべき債務に対して、支払い可能な現金等をどの程度有しているかを示す指標で、短期の支払い能力を表しています。200%を超えていることが望ましく、100%未満では不良債権が発生している可能性があります。</p>	<p>類似団体より高い水準を維持しており、短期的な支払能力を確保できています。</p>																						

健全性 に関する指標

業務指標	<p style="text-align: center;">企業債残高対事業規模比率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>182.89</td> <td>172.23</td> <td>165.02</td> <td>156.26</td> <td>146.39</td> <td>133.20</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>596.44</td> <td>612.60</td> <td>606.80</td> <td>585.56</td> <td>565.62</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			H28	H29	H30	R1	R2	R3	川越市	182.89	172.23	165.02	156.26	146.39	133.20	平均値	596.44	612.60	606.80	585.56	565.62	-
			H28	H29	H30	R1	R2	R3															
川越市			182.89	172.23	165.02	156.26	146.39	133.20															
平均値			596.44	612.60	606.80	585.56	565.62	-															
⑦企業債残高対事業規模比率(%)																							
評価基準																							
計算式																							
$\frac{\text{企業債現在高合計} - \text{一般会計負担額}}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益} - \text{雨水処理負担金}} \times 100$																							
説明	評価																						
<p>企業債の残高と使用料収入等の収益との比率を示す指標です。明確な数値基準はありませんが、比率は低い方がよいとされています。ただし、世代間負担の公平性という観点からは、企業債を一定程度活用することも望まれます。</p>	<p>類似団体より低い水準で推移していますが、企業債は今後も更新事業の財源として必要なため、世代間負担を考慮した適正な水準について検討が必要です。</p>																						

令和3年度取組状況報告書

健全性 に関する指標

業務指標	<p style="text-align: center;">累積欠損金比率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>0.00</td> <td>0.41</td> <td>0.19</td> <td>0.05</td> <td>0.00</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H28	H29	H30	R1	R2	R3	川越市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	平均値	0.00	0.41	0.19	0.05	0.00	-
		H28	H29	H30	R1	R2	R3															
川越市		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00															
平均値		0.00	0.41	0.19	0.05	0.00	-															
累積欠損金比率(%)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{当年度未処理欠損金}}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}} \times 100$																						
説明	評価																					
累積欠損金とは、営業活動の結果発生した損失が、当該年度で処理できずに複数年度にわたって累積したものを示しています。健全な経営を維持していく上では、累積欠損金が発生していないことを示す0%であることが求められます。	本市では、累積欠損金は発生していません。																					

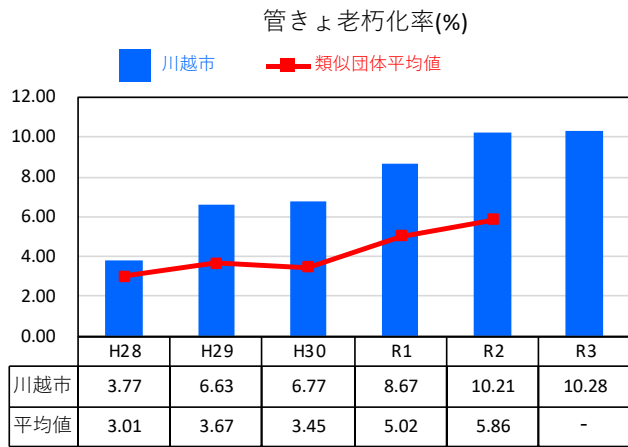
施設 の老朽化状況

業務指標	<p style="text-align: center;">有形固定資産減価償却率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川越市</td> <td>29.61</td> <td>31.53</td> <td>33.58</td> <td>35.64</td> <td>37.46</td> <td>39.16</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>28.42</td> <td>28.24</td> <td>29.38</td> <td>30.60</td> <td>27.39</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		H28	H29	H30	R1	R2	R3	川越市	29.61	31.53	33.58	35.64	37.46	39.16	平均値	28.42	28.24	29.38	30.60	27.39	-
		H28	H29	H30	R1	R2	R3															
川越市		29.61	31.53	33.58	35.64	37.46	39.16															
平均値		28.42	28.24	29.38	30.60	27.39	-															
⑧有形固定資産減価償却率(%)																						
評価基準																						
低い方がよい																						
計算式																						
$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$																						
説明	評価																					
有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを示す指標で、資産の老朽化度合いを表しています。この比率が高いほど減価償却が進んでおり、施設の老朽化が進んでいるということを示しています。	類似団体より高く、上昇傾向にあります。施設の老朽化が進行しているため、計画的、効果的な償却対象資産の更新等を行う必要があります。																					

令和3年度取組状況報告書

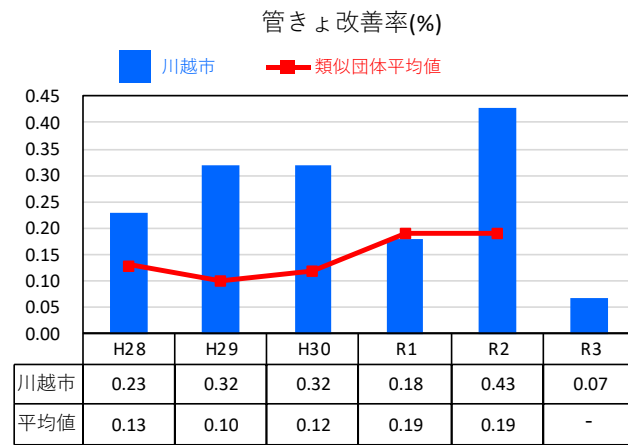
施設 の老朽化状況

業務指標		
⑨管きょ老朽化率(%)		
評価基準		
低い方がよい		
計算式		
法定耐用年数を経過した 管きょ延長 下水道布設延長 × 100		
説明	評価	
法定耐用年数を超えた管きょ延長の割合を示す指標で、管きょの老朽化度合いを表しています。	類似団体より高く、上昇傾向にあります。これから更新時期を迎える管きょが多く、老朽化率がさらに上昇することが見込まれるため、計画的、効果的に更新等を進めていく必要があります。	



施設 の老朽化状況

業務指標		
⑩管きょ改善率(%)		
評価基準		
高い方がよい		
計算式		
改善（更新・改良・維持） 管きょ延長 下水道布設延長 × 100		
説明	評価	
その年度に更新・改良・維持した管きょ延長の割合を示した指標で、改善の取組状況を表しています。例えば毎年1%ずつ改善した場合、100年で全ての管きょを改善する計算となります。	下水道管きょの調査・点検の結果、令和3年度の更生工事等の対象とする管きょが少なかったため、改善率が減少しました。今後も老朽化の進行が見込まれるため、計画的に更新を行い老朽化対策を進めていく必要があります。	



川越市上下水道事業経営戦略
(令和3年度 取組状況報告書)

令和5年1月発行

川越市上下水道局 総務企画課

〒350-0054 川越市三久保町 20 番地 10

TEL: 049-223-3063